



ZOWAオリジナルプロジェクト「君が私をダメにする」公開台本

▼使用に関する注意事項

「君が私をダメにする」公式サイト(<https://fun.zowa.app/lp/kimidame/>)
に公開されている利用規約を必ず「一読いただき、規約に沿って」利用ください。

第12話 「ヒーローインタビュー」

【登場人物】

アナウンサー

選手

実況



実況 「ご覧の通り今日のビッグスとチーターズの試合は5-3でビッグスが勝利しました」

実況 「あー」でヒーローインタビューの準備ができたようです」

アナ 「放送席、放送席。そして球場にお集まりのビッグスファンの皆さん」

アナ 「今日のヒーローインタビューは見事なサヨナラホームランを放ちました後藤選手です。ナイスバッティングでしたー！」

選手 「ありがとうございます」

SE 歓声

アナ 「1点ビハインドで迎えた9回裏2アウト満塁、そして2ボール2ストライクでのあの場面、どんな気持ちで打席に立ちましたか？」

選手 「そうですね。自分がヒーローになるチャンスでしたし、狙い球が来たら思い切り振ろうと思っていました」

アナ 「今シーズンの後藤選手の得点圏打率は3割4分1厘7毛」

アナ 「2ボール2ストライクでの打率は3割7分8厘2毛と驚異的な強さを見せていますが、その辺は意識しましたか？」

選手 「そ…うなん…ですか？」

意識してなかったです。というか、知らなかったですね

アナ 「これは私が独自に調べたデータなんですが…」

アナ 「夜8時半から8時50分の間に立った打席に限定して

後藤選手の成績を見てみると打率は3割5分1厘9毛。

これについてはいかがでしょうか？」

選手 「そうですね…。それも知らなかったですね…

っていつか、あなたためちゃくちゃ詳しいですね？」

アナ 「僕、実は後藤選手の大大大ファンなんですよ」

選手 「そうなんですか？ありがとうございます」

アナ 「他にも、満塁での打率が3割3分1厘2毛。月間打率が3割4分2厘7毛

チーターズ戦では3割6分3厘8毛ですが、このあたりは…」

選手 「『毛』が気になるー引く引く引く。詳しくぜひ引く。

なんで厘の下『毛』まで打率を把握してるんですか」

アナ 「あーすみません！」

選手 「そうですね…」

アナ 『毛』の下の『糸』まで言ったほうが良かったですよね

選手 「そ」じゃないです。そんなに詳しいデータ持ってる「な」なんですけど。
っていつか「毛」の次って「糸」なんです。それを知らなかったですよ

アナ 「だって後藤選手のこととは細かいと」まで知りたいんですよ！」

選手 「まあ、気持ちはありがたいですけど…」

アナ 「インタビューを続けさせていただきませぬ打った球はフォークですよ？」

選手 「そうですね。読み通りでしたね」

アナ 「相手の佐藤投手の球数が100球を超えたから

握力が落ちてフォークが甘く入る。…その可能性が高いと読んでいた！…
そうですね？」

選手 「そうですね

アナ 「23日前、佐藤投手から打ったホームランも試合終盤に甘く入ったフォークだった！だから今回もそれを狙っていた！…そうですね？」

選手 「そうですよね」

アナ 「今回も、そのイメージで打った……そうですねっ。」

選手 「そうですよね」

アナ 「なるほど」

選手 「笑っていいとも」が

アナ 「え？」

選手 「あなたがやたらと僕に詳しいから」そうですね「しが

言っ」じやないんですよ

アナ 「なるほど。普通にインタビューしてたつもりなんですけど」

選手 「普通じゃないですよ。」

あんま、付加疑問文でヒーローインタビューしないから

アナ 「過去の発言と照らし合わせたら、そんなのかなっと思って……。」

後藤選手の大ファンだから過去のインタビューは全部チェック

っしてました」

選手 「科捜研並のプロフィールリングですね」

アナ 「ありがとうございます」

選手 「褒めてください」

アナ 「ユニフォーム、後藤選手はTwitterで『ミニク料理にハマってる』とおっしゃっていましたが、それも好調の要因なのでしょうっか？」

選手 「そうですね。ミニクスープを飲むようになってから体の調子はかなりいいです。普段の食事からミネラルバランスを整えるようにしています」

アナ 「なるほどーだから、自宅がある分倍河原のスーパーでよくミニクを買ってるんですねー」

選手 「ちよーなんで家の場所知ってるんですかー！」

アナ 「この間、ロッカールームで家の話をしてるのを立ち聞きしてまして…」

選手 「だとしても言わないでくださいよー家バレしたらどうするんですかー！」

アナ 「大丈夫ですよープロ野球選手なんて都内には何百人も住んでいますしー！」

アナ 「自分を文房具に例えると何ですか？」

選手 「それ今聞くこと？それ就活の時に聞くやつなんですよー！」

アナ 「小技もできて長打力もある。」

試合状況によっては自らを犠牲にする進塁打も打つ」

アナ 「後藤選手は、様々な場面で活躍する3色ボールペン

といったところですかね？」

選手 「うーん…」

アナ 「どうしました？」

選手 「なんか怒るに怒れないんですよー。言ってくれてる事は嬉しいからー！

でも、もう終わっていいですか？」

アナ 「あー！本当にラスト！あと1個だけ！」

選手 「なんですかー！」

アナ 「この喜びを誰に伝えたいですか？」

やはり、府中のキャバ嬢の『アリスちゃん』ですか？」

選手 「え…ちよつとー何言ってるんですかー！」

アナ 「毎日通ってるじゃないですかーいつも隣のテーブルから見ますよー」

選手 「どーもどーして来てるんですかー！」

アナ 「えー、ちなみに私の調べたところによると

アリスちゃんをアフターに誘った時の成功率が

1割2分6厘3毛に低迷していますが不振の原因は为什么呢？

選手 「データ化するなーそして『毛』まで計算するなー！」

アナ 「私の分析ではお金を持つてるくせに、アリスちゃんがドンペリを

ねだつても値段の安いカフェパリしか入れないのが原因だと思います

選手 「的確な分析で殴らないでくださいよ」

アナ 「あと『六本木のキャバ嬢は牙城が高いから、府中に狙いを

定めている』ダサオ『もアリスちゃんに伝わっているのではないかと…」

選手 「だから的確な分析で殴るなっつていうか、今日、嫁も子供も

試合見に来てるんですけど…あ、あ、あ…」

アナ 「大丈夫ですって！夜遊びする後藤選手も魅力的ですよ！
アリスちゃんと上手いくように、僕は応援しています！」

選手 「もう話しかけないうでください」

アナ 「アリスちゃんは、分倍河原在任の後藤選手にはピッタリの
女の子だと思いますもん」

選手 「どっという意味ですか！」

アナ 「あーもしかして府中のキャバクラに行きやすいように
分倍河原に住んでるんですか！？」

アナ 「そっかそっか…じゃないと分倍河原なんか
わざわざ住まないですもんねえ」

選手 「怒られますよ」

アナ 「それでは、最後にスタンディングオベーション！一言！

選手 「本当に申し訳ありませんでした……！」